

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【川通中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きく、個別に必要な支援を講じていく必要がある。加えて、学習してから時間が経つと学習内容を忘れてしまっていたため、定期的に復習の時間を取り入れていく必要がある。そのため、次年度の改善策として過去の学習内容の復習をする時間を定期的に行い、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上を目指す。
思考・判断・表現	表やグラフ等の特徴を捉え、それを文章で表現する力に課題がみられた。そのため、表やグラフの特徴や傾向を捉え、言葉や数を用いて表現する活動を、教科横断的な視点で取り組んでいく。また、来年度は深い学びを実現するために、話し合い活動や意見共有の機会を増やし、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が95%以上を目指す。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が低い。 【指導上の課題】 取得した知識・技能を活用する活動を設定しにくい。	⇒ ・「前時の内容の確認」「基礎基本の確認」や「授業の振り返り」等を教員が意識し、生徒に働きかける時間をとる。【毎授業で5分実施】 ・基礎学力の向上を目指し、川通中チャレンジカップ(KcC)を5教科で実施する。【毎学期1回以上実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 文系科目では、文章で答える記述問題、理系科目ではグラフや図を用いた問題の解答に課題が見られた。 【指導上の課題】 結果をグラフや図にまとめる活動や考察や考えをまとめる活動が少ない。	⇒ 「グラフや表からの読み取り方」、「考察など考えをまとめる文章の型」等を具体的に教える。【毎学期1回以上実施】 生徒が話しレポート等に取り組む際、評価の観点を示し、生徒が考えたプロセスにコメントを付記して評価する。【毎回実施】 文系科目では、自分の考えを表現する機会を取り入れる【毎学期複数回実施】 宿題の質や量を意識して考えたり、表現したりすることができるようにするために、共同編集を用いた活動を取り入れる。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が70%以上】

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)  
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	・授業内容の復習や振り返りを実施した。それにより、学習時期が近いほど市学力状況調査の正答率が高かった。しかし、学習時期が離れているほど正答率が低かった。 ・毎学期KcCを実施し、基礎学力の定着を図った。しかし、KcCを実施する目的を把握しておらず、形骸的な実施になってしまった教科もあった。
思考・判断・表現	A	・理系科目において、「グラフや表からの読み取り方」、「考察など考えをまとめる文章の型」等を具体的に教えたため、生徒の深い学びを促すことができた。 ・生徒が作品・レポート等の評価観点を明示し、取組の過程やプロセスにコメントを付記して評価した。 ・文系科目において、各単元の最後に発表活動を取り入れた。 ・共同編集を用いた活動を取り入れた結果、R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が約98%であった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語において日本の伝統的文化に関わる韻文とその特徴的表現法、文字言語としての書写の技能の分野が弱い。そのため授業の中だけでなく、日常の中でも触れ、親しむ機会を提供していく。 数学においては、四分位範囲についての選択問題の正答率が全国と比べて21.4ポイント下回っていた。四分位範囲を調べたり求めたりすることはできるが、活用することが苦手、または、四分位範囲の数学的な意味の理解が浅いとみられる。言葉の意味や活用の問題等を増やしていきたい。
思考・判断・表現	国語においては、文章を読んで、その内容を理解する力やそれに対する自分の考えを書く力は比較的身に付いている生徒が多い。しかし、「話すこと・聞くこと」における論理の展開や「伝える」ための表現方法についての理解やスキルがやや弱かった。説明的文章を用いて、論理的構成法のパターンを身に付けるとともに、それを用いて自分の考えを筋立てて伝える練習をしていく必要がある。 数学においては、箱ひげ図を比較して説明する問題の無回答率が全国と比べて3.5ポイント高かった。これより文章で説明することが苦手、または、読み取ることができず、比べることが苦手とわかる。今年度当初より記述の問題に触れる回数を増やし、生徒の実態を見ている。継続していきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	基本的な用語や計算等は、おおむね正解率が高くなっている。しかし、授業中に説明した誤答例の通りに間違えてしまっていた。また、市学力状況調査から学習時期が離れている内容の問題ほど正答率が低い傾向があった。特に、2年生では1年生の内容が定着していなかったため、全教科が市平均を3pt以上下回っていた。授業の中で定期的に以前の学習内容を復習する必要がある。
思考・判断・表現	全体を通して、学習時期が離れている範囲の応用問題がその当時はできていた問題で正答率が下がってしまっている。原因が、基礎的スキルなのか、考え方が異なるのか、生徒によって違いが見られた。また、表やグラフが関連する問題で無回答率が高く、苦手であると考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	・授業ははじめの5分で前時の内容の確認を、終わりの5分で「授業内容の振り返り」を実施し、「授業内容の復習」を常活動として実施する流れを形成できた。 ・基礎学力向上を目指したKcCを1学期に実施したので、2学期、3学期も実施していく予定である。	変更なし
思考・判断・表現	B	・1学期はグラフや表の読み取り、考察をまとめる時間に方法や型を指導する機会を設けることができた。 ・生徒が考えたプロセスに対し、コメントを3回に2回ほど付記することができた。 ・自分の考えを表現したり共有したりする機会を月1回程度実施することができた。 ・各単元ごとで共同編集を用いた活動を取り入れることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)